



身近な地域のまちづくり活動への政策提案

富士河口湖町
地域おこし協力隊
岡田沙紀

精進湖活性化協議会



メンバー

男性9名・女性4名（事務局2名）



活動内容

- 古民家を改修した「田舎暮らし体験施設」の運営
- 地域イベントの企画
- 精進湖にて行われる色々なイベントの運営手伝い



活動を始めたきっかけ

人口減少・空き家増加による影響を重くみた精進湖住民、事業者、行政は2007年度に空き家の利活用による活性化を目的とし精進湖活性化協議会を発足。



体制

住民、住民兼事業者により構成され行政スタッフは事務局としてサポート。会合は基本的に毎月1～2回。

精進湖活性化協議会の歩み

- 2007年 地域住民・事業者・行政による協議機関 精進湖活性化協議会を結成
- 2008年 国土交通省による支援プログラム「新たな公」からの支援を受けて本格的にプロジェクトをスタート
- 2009年 国土交通省の支援「超長期住宅先導的モデル事業」からの支援で空き屋改修
前半⇒ハード整備として20件ある空き家からコンセプトに適合する2件(築200年を超える古民家「渡邊邸」大正から昭和にかけて営業していた駄菓子屋「小林商店」)を選抜し、簡易改修。
後半⇒「渡邊邸」「小林商店」を移住交流を目的とした体験交流施設として活用し、体験モニターを受け入れ、来年度より本格的な事業をスタート。

2010年 精進湖活性化協議会、HP及びブログの開設

体験施設「小林邸」「渡邊邸」、NHK「おはよう日本」で放送。

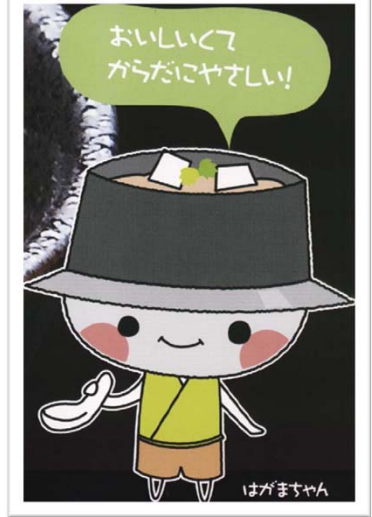


精進湖活性化協議会の歩み

2011年 石畳、フェンスの色による景観保全(居村地区)
「精進湖の秘宝」宝さがしゲームの設置

2012年 まちおこしの一環としてご当地グルメ「精進粥」を開発
ご当地キャラ「はがまちゃん」も作成

2013年 「全国ご当地もちサミット2013in 一関」
に参加し精進粥のPR活動



ウルトラトレイルラン マウントフジ2015

9月25日(金)に、ウルトラトレイルランマウントフジが開催されました。ウルトラトレイルランとは距離100km、4,612m以上の富士山の山頂、登山道、砂走、砂走を46km登山道に走るトレイルレースです。出走者は男性1128名、女性238名の合計1366名、外国人選手も多く参加しました。選手は朝日10時に河口湖八幡宮集合を皮切りに八木崎分館から19、1km先の精進湖民営村の富士のふもとでスタートしました。この大会は精進湖活性化協議会が主催し、協議会では「すいとん」を作り選手に提供しました。精進湖の湧水もすいとんを茹でるお湯を合わせて商品名を「精進すいとん」と名づけてました。当日は非常に雨で肌寒く、選手からは「身体が温まるだけでもありがたい。止むまで、お湯を飲んでもらいたい」と言われ、嬉しい声も聞かれました。おかわりする選手も多数いて、約1300食作った精進すいとんは、ほぼ完売しました。

精進ずらずら新聞
2015年
9月30日
編集・発行
精進湖活性化協議会
精進湖活性化協議会

精進すいとんは、精進湖の湧水もすいとんを茹でるお湯を合わせて商品名を「精進すいとん」と名づけてました。当日は非常に雨で肌寒く、選手からは「身体が温まるだけでもありがたい。止むまで、お湯を飲んでもらいたい」と言われ、嬉しい声も聞かれました。おかわりする選手も多数いて、約1300食作った精進すいとんは、ほぼ完売しました。

10月 EVENT INFORMATION
▼16日(金)~18日(日)
富士山マラソン
▼19日(月)
秋祭り
▼31日(土)~11月1日(日)
開成温泉スキー大会

精進湖活性化協議会
メンバー
山田 君子

2014年 精進婚活ツアー、クリスマス会を開催

2015年 富士河口湖町地域おこし協力隊が加入

「精進ずらずら新聞」を作成し、活性化協議会の活動や精進のイベントを地域の皆様に知ってもらうため発行。1軒1軒、手配り。



活動の成果、波及効果

移住体験施設期間終了後、精進、富士河口湖町に定住。
地域住民の交流する場を提供



成功の要因

歴史の町並み保存、精進を様々な方法でPR



活動を通じて学んだこと、得たこと

精進の歴史を再確認、地域の交流促進、移住者が徐々に増加



活動の今後の展開

新たなイベントの誘致や町内の行事に積極的に参加、町おこし先進地への視察



現状の課題点

旧精進小学校、保育園の利活用、空き家の提供が少ない、若者が少ない

現状の課題に対する提案

- 行政、コンサルタントに頼らない自発的な活動
- 1年に1回のクリスマス会以外にも地域の交流の場を作り、地区全体の連携を強化。
- 外に発信する活動をし、精進湖をPR。
精進でできるワークショップなどを企画。
- 学生との連携を強化。若者が少ないことから
学生と連携することにより町が活気付く。